

Title	本学新入生は医の倫理についていかに考えているか(続) ： 歯科学生の目的意識について
Author(s)	水野, 嘉夫
Journal	歯科学報, 93(2): 161-163
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/2155">http://hdl.handle.net/10130/2155</a>
Right	

## 本学新入生は医の倫理についていかに考えているか (続)

### — 歯科学生の目的意識について —

水野嘉夫

東京歯科大学市川総合病院内科学講座

Medical Ethics and Dental Students

Yoshio MIZUNO

Department of Internal Medicine, Tokyo Dental College

老人問題や外国人労働者問題等、様々な社会問題にとり囲まれる昨今、それぞれの問題の一側面に医療関係の改革や再考が望まれることが多い。とりわけ最近富みに報道される、インフォームド・コンセント、医の倫理、尊厳死と終末医療、癌告知等は、医療関係者にとっては重要な課題であり、東京歯科大学でも医学的知識を十分に習得し、全身を理解できる歯科医を育成すべき教育がなされているが、教養課程(1年生)の歯学概論の中に「生命の尊厳と医学」を盛り込んでいるのもそのひとつの表れである。

これから歯科医を目指して勉強を始めようとする学生が、これらの問題についてどのような意識や思考を持っており、また将来それがどの様に変化するかを知ることが興味を持たれるところであり、歯学教育の方向付けにも大いに参考になることと思ひ、「生命の尊厳と医学」の講座を始める前に学生の意識調査を試み、既に報告した(歯科学報92巻9号1301~1304頁 平成4年)。すなわちインフォームド・コンセント、医の倫理、歯科医と患者の人間関係、尊厳死と終末医療、癌告知の5項目の中から一つを選んで1200字以内のレポートを書かせた。これらの項目は大別すると2群に分けられる。その一方(I群)は医療全般にわたって考えられるべき項目である(1)インフォームド・コンセント、(2)医の倫理、(3)歯科医と患者の人間関係であり、他方(II群)は生命についてより深く考えられるべき項目である(4)尊厳死と終末医療、(5)癌告知である。その際、何ら文献や本を参考にせず、現在の自分の意見を述べることを条件にした。

その結果、レポートの項目選択率の最も高かったもの

は癌告知(43.1%)、次いで歯科医と患者の人間関係(23.8%)、尊厳死と終末医療(21.1%)、インフォームド・コンセント(8.3%)、医の倫理(3.7%)の順であり、選択項目を群別にまとめると、I群35.8%、II群64.1%であった。また男女の分布を見ると、男子学生については両群の割合がほぼ等しいのに対し、女子学生の89%がII群を選択しており、女子学生の方が生命に対する概念により強い関心を示していることが分かった。また、歯科大学に入学した学生にしては、歯科医と患者の人間関係を選択する者が23.8%と意外に少数であった。

そこで3ヵ月後の今回は、先の5項目からの選択について再度希望する項目を尋ねるアンケートをとり、学生の意識を再認すると同時に、歯学教育が終了する6年後に同様の調査があった時に選択項目の変更があるか否かを尋ね、意識の変化の予測について調査した。

その結果、3ヵ月後の選択希望についてのアンケートでは94%の者が前回と同じ項目を希望しており、学生の現在の意識の信頼性が確認された。

次いで、現在選択した項目と、6年後に選択を希望するであろう項目についての関連を見ると表1のごとくであった。全体として見ると、歯科医と患者の人間関係を選択する者が現在は23.8%(前回報告)であるのに対し、6年後には54%に増加している。現在I群の項目を選択している者は、それぞれの項目においてその半数以上が同じテーマを選択しており、またII群の尊厳死と終末医療を選択した者の39%、癌告知を選択した者の61%がI群の歯科医と患者の人間関係を選択している。つまり現在I群の項目を選択している者は6年後にもテーマを変

表1 6年後の選択テーマ

6年後の テーマ  現在の テーマ		I群			II群		合計
		(1) インフォーム ドコンセント	(2) 医の倫理	(3) 歯科医と 患者	(4) 尊厳死と終 末医療	(5) 癌告知	
I 群	(1) インフォーム ドコンセント	5 (56%)	0	2 (22%)	2 (22%)	0	9 (100%)
	(2) 医の倫理	0	3 (50%)	2 (33%)	0	1 (17%)	6 (100%)
	(3) 歯科医と 患者の関係	4 (14%)	4 (12%)	21 (67%)	1 (3%)	2 (6%)	32 (100%)
II 群	(4) 尊厳死と 終末医療	5 (18%)	5 (18%)	11 (39%)	7 (25%)	0	28 (100%)
	(5) 癌告知	7 (11%)	4 (7%)	37 (61%)	4 (7%)	9 (14%)	61 (100%)
合計		21 (15%)	16 (12%)	73 (54%)	14 (10%)	12 (9%)	136 (100%)

現在各テーマにおける、6年後の最多テーマ

表2 6年後の選択テーマの変更の有無

現在選択テーマ		6年後変更	6年後不変	合計
I 群	(1)インフォームド・コンセント	4	5	9
	(2)医の倫理	3	3	6
	(3)歯科医と患者の人間関係	11	21	32
小計		18 (40%)	29 (60%)	47 (100%)
II 群	(4)尊厳死と終末医療	21	7	28
	(5)癌告知	52	9	61
小計		73 (82%)	16 (18%)	89 (100%)
合計		91 (67%)	45 (33%)	136 (100%)

えない者が多く、II群を選択した者の多くが6年後にはI群の項目を選択していることが分かる。このことは6年後に選択テーマを変えるか否かという点に関して群間比較をした表2でもよく表われている。すなわち6年後に現在とは違うテーマでレポートを書くと考えた学生はI群では40%、II群では82%であり、この傾向は男女とも同様の傾向を示した。

選択項目を変えると解答した者のうち、同じ群の中の

別項目を選択すると解答した者は、I群では67%、II群では5%であり、現在II群を選択した者のほとんどは6年後にはI群のテーマを選択すると解答した(表3)。

以上より、生命に関する概念に高い関心を持つ者のほとんどは、6年後にはより実際の医療に、特に歯科医と患者の人間関係に関心を示すであろうと予想された。また全体的にみても歯科医と患者との人間関係を選択するものが、現在の2倍に増加することからもうかかえる

表3 変更する6年後のテーマの群分布

現在のテーマ		6年後のテーマ分布	同群内で テーマを選択	異群の テーマを選択	合計
I 群	(1)インフォームド・コンセント		2	2	4
	(2)医の倫理		2	1	3
	(3)歯科医と患者の関係		8	3	11
	小計		12 (67%)	6 (33%)	18 (100%)
II 群	(4)尊厳死と終末医療		0	21	21
	(5)癌告知		4	48	52
	小計		4 (5%)	69 (95%)	73 (100%)
	合計		16 (18%)	75 (82%)	91 (100%)

ように、歯科教育を終了する頃には歯科医としてのアイデンティティに関心を寄せてくると見られる。従って本学に入学する者の多くは歯科医になるという目的意識を十分に持ち合わせていることがこの調査で明らかになっ

た。6年後に実際彼らがどのような選択をするか大変興味のもたれるところであるが、前回の報告と同様本学にとって明るい将来が期待できる結果であろうと考えられた。